

「わたり防災フォーラム 2018」で登壇しました(2018/02/17)

場所：巨理町中央公民館 大ホール（宮城県巨理町）

参加者：今村教授，佐藤翔輔准教授，戸川（M2）

2月17日（土）に、宮城県巨理町において「わたり防災フォーラム 2018～災害の記憶を後世に繋ぐ～」(主催：宮城県巨理町，共催：巨理町自主防災会連絡協議会，協力：東北大学災害科学国際研究所)が開催されました。同町で、防災に関する大々的な市民向けフォーラムが開催されるのは、東日本大震災発生以後はじめてのことです。

本フォーラムは、特別講演、荒浜中学校と旭台区による防災の取組みに関する事例発表「わたしの町の防災活動」、5人の町民をパネリストにむかえたパネルディスカッション「災害の記憶を後世に繋ぐ」の3部構成で行われました。今村文彦教授は、冒頭の特別講演にて「東日本大震災での経験・教訓の継承について」という題目で、2011年東北地方太平洋沖地震・津波のメカニズム・実態を振り返るとともに、後世に経験や教訓を伝える上でのあり方や今後の展望について紹介がなされました。また、パネルディスカッションにおいてコーディネーターをつとめました。

当日は、約200名の方が来場され、休日・雪の中、初回にも関わらず、盛会となりました。会場には、本研究室の展示ブースをおいていただき、企画・調査協力をさせていただいている巨理町におけるこれまでの訓練の編成、巨理町における弊所の協力プロジェクト、「みんなの防災手帳」についてご紹介もしました。佐藤翔輔准教授が当日の企画・内容の設計に協力しました。また、修士2年生の戸川直希もブースで連携の活動について紹介しました。



今村文彦所長（特別講演）



会場の様子



展示ブースの様子



パネルディスカッションの様子
 (文責：今村教授，佐藤翔輔准教授，戸川)